



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



2/27 交響楽団の指揮者を体験

飯館中学校、県立川俣高等学校の中高合同音楽鑑賞教室が川俣高等学校体育館で開かれ、両校の生徒、教師、保護者ら約400人がクラシック音楽を鑑賞しました。

6年前に飯館中学校で演奏したことがあるセントラル愛知交響楽団から「被災地を応援したい」との申し入れが福島県文化センターを通じて飯館中学校にあり、今回の川俣高等学校との初めての合同行事の実現につながりました。

同交響楽団は、楽器の紹介を行いながらモーツァルトなどを中心に8曲を演奏しました。

途中、指揮者体験を行う場面では、中学生を代表して3年生の杉岡陸くんが体験し、「貴重な体験をさせていただきました」と感想を述べていました。



松川第1仮設住宅地内に飯館村直売所松川店がオープンしました。この直売所は、仮設住宅内の利便性向上や避難生活の中での営農意欲の維持などを目的に飯館村直売所連絡協議会（佐藤八郎代表）が運営しています。直売所では村民が避難先で生産した野菜のほか、地元松川で生産されたものなど県内産の野菜の販売に力を入れています。開店からひと月ほど経った2月末で、1日平均60人ほどが直売所を訪れています。来店するのは仮設住宅に住んでいる村民だけでなく、松川町の地元の方や福島市内の方、松川以外に避難した村民などさまざま



▲店内には村民が生産した野菜や農産加工品が並びます

です。直売所では「高齢者の健康を心配している。しっかりと食事から健康管理ができるように今後は食材の宅配などを手掛けていきたい。村民が作った食材が便利の代わりになれば」と今後の目標を話していました。直売所は、毎週月曜日が定休日となっています。

1/28 飯館村直売所松川店がオープン

1/10~2/28 クリアセンター内で除去物を一時保管しています



▲黒いコンテナは遮へい用です。このあと覆土をして保管しています

国が実施した除染モデル実証事業で発生した土、木の枝、腐葉土などの除去物を小宮沼平地内のクリアセンターで一時保管しています。

この保管は、原子力災害対策特別措置法に基づいて設置される除去物の仮置き場が完成するまでの期間となります。

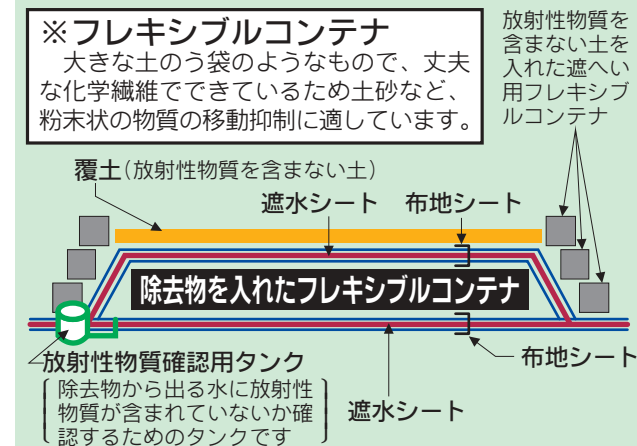
この一時保管に際しては、水漏れを防ぐための遮水シートや、それを保護するための布地シートを地面に敷き、その上に除去物を入れたフレキシブルコンテナを置きます。そして、水の流入を防ぐためにフレキシブルコンテナを上からも遮水シート等で覆います。

さらに、除去物からの放射線を遮へいするために、周囲に放射性物質を含まない土壌を詰められたフレキシブルコンテナを設置し、上部には放射性物質を含まない土で覆います。

また、一時保管中は、定期的に空間線量率のモニタリングや、除去物から水が出てきた場合には、タンクに集めて放射性物質が含まれていないかを確認するなど、放射性物質が漏れないように確認して細心の注意を払って監視しています。

村では3月下旬ごろまでに見学会等を開催する予定です。

【保管方法略図】



第五七七号 平成二十四年三月五日発行(毎月五日発行) ●発行/飯館村 ●編集/総務広報委員会 千九六〇一三〇一 福島県福島市飯野町後川一〇番地二 飯館村役場飯野出張所 ☎〇四一五六一四二四六 印刷(株)こはた印刷所

地震から1年を ふり返る

3月11日に発生した東日本大地震。その発生からもうすぐ1年が経とうとしています。この1年の間に村は計画的避難区域に指定され、村民がバラバラになる生活を強いられることになりました。今回は地震発生から起きたさまざまできごとを振り返ります。

3月 地震の発生と避難所の開設

3月11日に発生した地震で、村内では停電や電話の不通が生じ、復旧まで数日を要しました。

また、翌日の3月12日から東京電力福島第一原子力発電所の1号機から4号機が次々に爆発し、村にも放射性物質が降り注ぎました。

村では避難者を募り、3月19日、20日の2日間で509人が栃木県の鹿沼市総合体育館に避難しました。鹿沼市総合体育館の避難所は4月30日まで開設されました。



▲いちばん館で行われた避難所への炊き出しのようす

4月(1) 計画的避難区域への指定

村が計画的避難区域に指定される方針が発表された4月11日から、村は、村議会、区長会などへ説明を始めました。

4月12日には村議会事故災害対策特別委員会の席上で、放射能の影響がわからない中で、安心安全な農作物を作ってきた者の責任として農作物作付けを見送ることを決めました。

4月20日、村幼稚園合同入園式と小中学校の合同入学式が、飯館中学校で行なわれました。4月21日からは川俣町の幼稚園、中学校、県立川俣高等学校などに勉学の場を移しました。



▲村による住民説明会のようす



▶合同入学式のようす

4月(2) 全村の被災者証明の発行と東京電力の謝罪

4月22日に村全域が計画的避難区域に指定され、23日からは全村民を対象に被災者証明書の発行が始まりました。

4月29日、村内の各行政区集会場などを会場に住民説明会と災害救援見舞金の支給が行われました。災害救援見舞金は1人3万円ずつ、総額1億9,629万円が6,543人の村民に支給されました。

4月30日には東京電力が飯館村民への謝罪及び住民説明会を開催し、飯館中学校体育館に村民約1,300人が参加しました。

そのうち約20人の村民が東京電力に質問や今後への不安、要望などを伝えました。



▲謝罪・住民説明会のようす

5月 計画的避難の開始

5月に入ると、県借り上げ住宅への避難受け付けが開始されました。公的宿舎への入居や旅館等への一時避難も開始され、5月15日には離村第1陣として、10世帯64人が吉倉公務員宿舎などに避難しました。

一方で5月17日には屋内作業場の線量が十分に低いことや従業員の線量管理ができることを条件に、いたてホームを含む村内9事業所が国から村内での事業継続を認められました。

5月28日には国や県などが参加し、「ふるさとへの帰還に向けた取組」農地土壌除染技術開発第1回会合が開かれ、農地の放射能除去について話し合いがもたれました。この後、村内では農地の除染に向けた国の実証実験が行われています。



▲県借り上げ住宅申請のようす



5/30	5/28	5/25	5/23	5/18	5/17	5/15	5/10	5/9	4/30	4/29	4/22	4/21	4/20	4/13	4/12	4/12	4/11	4/7	4/6	4/1	3/30	3/22	3/21	3/19	3/12	3/12	H23	
結	村と福島市が支援協定を締結	「ふるさとへの帰還に向けた取組み」として農地土壌除染技術開発の実証実験を開始	第5回村議会臨時会で飯館村役場飯野出張所設置条例、いいたて全見守り隊の予算などが可決	相馬農業高等学校飯館校が福島県教育センターで始業式	村外の避難先からのスクールバス運行開始	計画的避難に伴う第1陣が離村	国が9事業所の村内での事業継続を承認	相馬農業高等学校飯館校が福島県教育センターで始業式	飯館中学校体育館で東京電力が飯館村民への謝罪・住民説明会を開催	飯館中学校で合同入園式、小中学校合同入学式を行う	政府が村を計画的避難区域に設定すると発表	村が村民に災害救援見舞金を現金給付	飯館中学校体育館で東京電力が飯館村民への謝罪・住民説明会を開催	飯館中学校で合同入園式、小中学校合同入学式を行う	村内6カ所計画的避難の住民説明会を開催	第8回村議会事故災害対策特別委員会今年度農作物作付け見送りの方針を決定	国が村内の土壌からストロンチウムが検出されたと発表	乳幼児・妊産婦の村外避難募集を開始	政府が計画的避難区域設定の方針を発表	県が土壌調査の結果を発表	県が土壌調査の結果を発表	県が土壌調査の結果を発表	県が土壌調査の結果を発表	県が土壌調査の結果を発表	県が土壌調査の結果を発表	県が土壌調査の結果を発表	県が土壌調査の結果を発表	県が土壌調査の結果を発表

3月からの主なできごと



▲「飯館村敬老会」のようす

9月 飯館村敬老会の開催

9月には村の大きな行事が並びました。
9月18日に福島市飯野町で開かれた「飯館村敬老会」には村の75歳以上のお年寄り310人が出席しました。

また、9月19日に福島市の松川第1仮設住宅駐車場を会場に開催された「絆つながる『までいな1日。』」では1,500人が会場を訪れました。

さらに9月30日には村の表彰式が行われ、人権擁護委員や教育委員を長年務めた佐藤隆明さんら4人に功労表彰や善行表彰が贈られました。

9月12日には、福島市飯坂町内に「いやしの宿いいたて」が開所し、会議会場や村民の憩いの場として使用されています。「いやしの宿いいたて」には温泉があり、平成24年1月末現在で延べ8,000人以上が利用しています。



▲飯館村表彰式のようす



▲福島市飯坂町に開所した「いやしの宿いいたて」



▲絆つながる「までいな1日。」では比曽行政区の「三匹獅子舞」も披露されました



▲いいたて全村見守り隊出発式のようす



▲飯野出張所開所式(6月22日)のようす

6月 いいたて全村見守り隊発足 役場機能の飯野出張所移転

6月には一部の仮設住宅が完成し、入居が始まりました。

全村避難に伴い、村の防犯パトロールを24時間体制で行う「いいたて全村見守り隊」が発足したのも6月です。

また、村役場も6月22日に福島市飯野町に出張所を開所し、以降、業務のほとんどが飯館村役場飯野出張所で行われています。



▲完成した仮設住宅(写真は相馬仮設住宅)

7月~8月 仮設住宅への入居進む

7月には県内に建てられた仮設住宅への入居が進んで行きました。

公的宿舎や仮設住宅への入居が進むにつれて、公的宿舎や仮設住宅では自治会が組織されました。

また、8月12日に旅館などへの一時避難が終了しました。

夏休みには中学生18人が「飯館村未来への翼プロジェクト事業」で8月8日から17日までの日程でドイツ研修を行いました。



▲ドイツ研修のようす

9/30	9/28	9/19	9/18	9/17	9/16	9/12	9/11	9/11	9/7	9/3	8/21 9/14	8/10	8/8 8/17	7/27 7/29	7/21	7/7	7/2 7/4	6/22	6/22	6/6	6/5 7/31	H23 6/1
飯館村表彰式	飯館村除染計画書を国・県に提出	絆つながる「までいな1日。」を開催	飯館村敬老会を開催	いいたて子育てプリペイドカード交付式を開催(第2回)	飯館村避難民自治組織連絡協議会を開催	「いやしの宿いいたて」開所式を開催	福島警察署が松川第1仮設住宅集会所に「ふれあい交番」を設置	いいたて子育てプリペイドカード交付式を開催	鹿野道彦農水相が村内の放射性物質除去実験を視察	伊達東仮設住宅で健康プログラムがスタート	仮設住宅・公的宿舎など12カ所で飯館自治会設立集会を開催	元新潟県山古志村(現長岡市)村長長島忠美さん講演会開催	飯館村未来への翼プロジェクト事業(飯館中学生18人によるドイツ研修)実施	村職員が三宅村を視察	始	東京都三宅島三宅村長平野祐康さんが職員に講話	ホールボディカウンタ検査(先行調査20人)	までいな希望プラン発表	役場機能を福島市飯野出張所に移転	いいたて全村見守り隊出発式を開催。防犯パトロールを開始	仮設住宅への入居開始	福島市飯野町に出張所を開設。1次避難所の健康相談・行政相談を開始

12月 国による除染モデル実証事業の開始、復興計画の完成

12月6日から18日にかけて村の除染の拠点とするため環境省・自衛隊による村役場本庁舎の除染活動が行われました。この除染活動では芝生の剥ぎ取りや石畳舗装の隙間の土の除去を行うことにより放射線量が低減したという結果が報告されています。

12月19日からは草野大師堂地内で国による除染モデル実証事業が開始され、宅地や山林を含めた除染活動が行われました。3月にはその結果が公表される予定です。

また、12月8日にはいいたて復興計画村民会議の代表者が村に答申書を提出しました。この答申に沿っていいたてまでの復興計画が策定され、12月16日の村議会の決議を経て避難中の全世帯へ配られました。

12月24日には「沖縄でのまでの旅」、翌25日には9ヵ月遅れの「平成22年度飯館村幼稚園小学校 卒園・卒業式」が行われました。

【1年をふり返って】

相馬仮設住宅自治会長の佐藤襄二さんと管理人の北原康子さんにお話を伺いました。

相馬市の仮設住宅に入居してきた昨年7月。まず夏の暑さにぐったりしました。

また、初めての集団生活は、今までに経験したことのなかったことなので、お互いへの気づきが大変だと感じました。この仮設住宅ではイベントなどで忙しい日々が続き、この1年間はとても長く感じました。

村には除染を早く進めて村に帰れるかどうかの方針を早く決めてほしいと思っています。

とにかく今は体に気をつけながら頑張るしかないと考えています。

今年は、若い世代の方の力を借りたり、意見をいただいたりしながら自治会として前向きな活動に取り組んでいきたいと思っています。



▲お話を伺った佐藤会長(右)と北原さん

平成24年 1月~2月 住民懇談会・いいたて村民ふれあい集会の開催

1月には常陸宮さま華子さま両殿下が、松川第1仮設住宅を訪れ、村民を励まされました。

2月には2回目の住民懇談会が県内5ヵ所で開かれました。10月から12月にかけて開かれた懇談会と同様に、出席者からは様々な意見や質問、要望が寄せられました。

また、2月12日には「いいたて村民ふれあい集会」が福島市飯坂町の「パルセいいざか」で開催され、多くの村民が会場を訪れ交流を深めました。

ご寄付、ご支援をいただいたみなさん ありがとうございました

震災以降、国内外から3億701万1,402円の義援金と6,951万6,126円の基金寄付をいただきました。

義援金のうち、2月末までに2億6,137万円が災害救援見舞金として皆さんに届けられています。また、基金寄付についても村の復興事業等に活用しています。

2/12	2/7 2/26	1/24	1/17	1/8	H24 1/8	12/27	12/25	12/24 12/27	12/19 2月末	12/16	12/8	12/6 12/18	11/4	11/1	10/30	10/28	10/23	10/19 12/6	H23 10/19 12/5	
「いいたて村民ふれあい集会」を福島市飯坂町で開催	飯館村住民懇談会を県内5ヵ所で開催	放射線リスク講演会を開催	問	常陸宮さま、華子さま両殿下が松川第1仮設住宅を訪	平成24年飯館村成人式	平成24年飯館村消防出初式	除染事業に関する組織立ち上げ会議	平成22年度幼稚園小学校卒園卒業式を川俣町で行う	沖縄でのまでの旅(村の小学6年生の沖縄研修)を実施	草野大師堂地内(西工区)で国が除染モデル実証事業を実施	政府が東京電力福島第一原子力発電所の原子炉が冷温停止状態になったと判断し事故以来工程表のステップ2の完了を宣言	いいたて復興計画村民会議の代表が村に答申書を提出	村役場本庁舎の除染を実施	小宮行政区対象の飯館村除染計画説明会を開催	「サポートセンターあつまつべ」で地域交流サロン、通所介護サービスを開始	飯館中学校「赤蜻祭」を川俣町で開催	「サポートセンターあつまつべ」が松川第1仮設住宅に開所	飯館村消防団秋季検閲式が行われる	いいたて復興計画村民会議を開催	避難者との住民懇談会を開催

10月 住民懇談会の開催 復興計画の策定開始

10月に入り、村は避難した村民を対象とした住民懇談会を開始しました。

この懇談会は、10月19日に伊達市保原市民センターからスタートし、県借り上げ住宅への入居者を対象に県内5ヵ所、さらに公的宿舎や仮設住宅などの入居者を対象に12ヵ所の計17ヵ所で開催しました。

12月5日まで開催されたこの懇談会では、村が説明したこれまでの村の施策や対応に対し、出席者から除染の方法や帰村の時期などさまざまな意見や質問が出されました。

10月19日にはいいたて村民復興会議が開かれ、村の職員、議員、村民の代表らに加え有識者が参加し、「村民1人ひとりの復興を目指す」村の復興計画の検討が始まりました。

11月 小宮行政区住民対象の 除染計画説明会を開催

11月には小宮行政区住民を対象とした村除染計画説明会が開かれ、仮置き場の場所や仮置きの方法などを国、県、村が出席者に説明しました。

11月20日には第23回ふくしま駅伝に飯館村チームが出場しました。オープン参加で後半8区からの出場となったものの選手たちが力走を見せた大会となりました。

▶ふくしま駅伝に参加した選手たち



▲住民懇談会のようす



▲いいたて村民復興会議のようす



1年をふり返って

昨年3月11日以来、その対応に無我夢中で向き合ってきたところですが、もう1年が経つのですね。

この間、村民の皆さんには想像だにしていなかった避難生活を強いることになってしまい心が痛むばかりです。

この災害は天災ではなく、人災でありますから、その責任を国や東電に強く申しつけてきたところですが、一方で飯館村はこの難局に当たっていろんな提案、提言をして、国にかなりのことを実現させてきたところですが、

村の事業所やいいたてホームの村内での操業、いいたて全村見守り隊による村内の防犯パトロールの実施、除染の実証実験、避難者の二重住民票的法律も作らせました。国の除染に対する認識の甘さを指摘し、我々に裁量権を求めてきたところですが、さらに、避難する方々の心に寄り添ったソフトランディング的（補償などの猶予期間等）なことを今提案しているところです。村民の不安を解消すべく、各種の検査や検診、心のケアなど課題は山積みですが、村民の立場に立ち、議会ともどもこの難局にしっかり向き合い、村民の暮らしやふるさとを守っていく覚悟です。

村民の皆さまには、まだ不自由な暮らしを強いているところですが、なにぶんご協力をお願いします。特に健康には十分留意されますことを心よりお願いしたいと思います。

平成24年3月5日

飯館村長 菅野 典雄

地震が発生したとき、南相馬市に居た私は、すぐに村に戻り子どもを迎えに行きました。

幼稚園について、がたがた震える子どもを見たときにはボロボロと涙がこぼれました。

友人に教えてもらい車に燃料を入れることが出来ましたが、寒いなか車中泊をしていたのでそれ程もぢませんでした。余震も多くとても怖かったです。

原発が爆発したことは車についていたテレビで知りました。幼いときに「原発が爆発したら風の流れて飯館は危ない」と言っていた人がいたことを思い出し、不安になりました。

数日後には、夫と子ども、実家の家族、近所の方と県外に避難しました。その時にはこんなに長い避難生活になるとは思わず、すぐに戻って来ることができると思っていました。

村の空間線量が高いままだったので、子どもは避難先の小学校に入学させることにしました。

しかし、夫の仕事や子どもの「飯館の学校に戻りたい」という言葉から、戻ることには不安を持ちながらも、県内に借り上げ住宅を借りました。

最近は何をしてもむなしさが残ります。

今まで村での生活しか知らなかった村民の方々は大きなストレスを抱えていると思いますし、心もズタズタになっていると思います。

村の人の間にも帰村や除染に対する考え方に温度差があるように思え、村が一つになれていないとも考えています。

懇談会などに参加しても時間で区切られてしまい、自分の考えていることを村に伝えることがなかなかできません。

また、テレビなどで観る空間線量が村の現状に即していなかったり、情報が後手後手になり、正しく伝わっていないように思えます。

村には、的確な情報を適正に出していただきたいと思っています。私は子どもを連れての帰村は今のところ難しいと考えています。



青田 京子さん



大東 啓史さん

私は、地震のとき福島市に住んでいました。地震が発生したとき、すぐに村の家族に連絡を取ろうとしました。とても慌てていたことを覚えています。

地震発生当日に村に帰り、仕事を休んでいると原発が爆発し、南相馬市から親戚が避難してきました。

村が計画的避難区域に指定されるまでは沿岸の津波の被害も見えていなかったため、まさか村は大丈夫だろうという思いで過ごしていました。

村を離れるときには家族と「これから本当にどうしていけばいいのか」という話をしました。

今、南相馬市から避難してきた親戚は叔父、叔母と一緒に住み、私は福島市に、家族は南相馬市に住んでいます。

避難生活は疲れたし、もう村には帰れないかもしれないと考えています。

国をあげて村の除染に取り組んでほしいし、いつか村に帰れるようにしてほしいと思います。



荒 一徳さん

お話を伺いました

地震の発生からもうすぐ1年が経とうとしています。村の方に1年を通じて感じたこと、今思っていることなどを伺いました

現在、伊達市に娘と避難していますが、妻と母は通院のため福島市への避難となり家族が離れてしまいました。

住宅を借りるための条件が合わず、避難できたのは7月の末でした。村を離れるときはこれからどうなるのか不安だったことと、ペットも連れて行けず踏ん切りがつかせませんでした。

震災から1年が過ぎ、疲れと「いつ帰れるのか」という思いを強く感じています。

長い間村が培ってきた、「まじい」の精神をできるだけ元に戻してほしいと思います。



佐藤 栄一さん

今は仮設住宅に住んでいます。

私は、6月に一時避難し、その後仮設住宅に移りました。生まれ育った家を離れるのはやはりさびしかったです。

温泉施設に一時避難しましたが1日や2日の話ではないので大変な生活を送りました。慣れない集団生活に心細さを感じました。

仮設住宅は狭いところに押し込められた感じがしました。これから暖かくなってくるので、再出発する心構えを持っていきたいと考えています。

また、平和に暮らせる村を取り戻してほしいとも考えています。